

◆販売収益20年8000万円

発電した電気の買い取りを電力会社に義務付ける固定価格買い取り制度を利用した生駒市の水力発電設備が同市山崎町の山崎浄水場で完成し、19日に運転を始めた。県の調整池から水道水を受け取る際の落差を利用しており、24時間発電する。経済産業省によると、自治体が水道事業を利用してこうした設備を新設、同制度の認定を受けて稼働するのは全国で初めてという。(一円正美)

同浄水場は、水道水を自治体に供給する県の平群調整池の63メートル下に位置しており、これまでは落差で高まった水圧を減圧弁で調整して受水し、市内の各家庭に送水していた。

発電施設は、この水圧を下げずにそのまま利用し、ポンプ内の水車を回転させて発電する。市によると、発電能力は毎時40キロ・ワットで、24時間稼働で年間35万キロ・ワットに達し、一般家庭62世帯分に相当するという。

火力と比べると年間108トンの二酸化炭素(CO2)削減効果が見込めるといい、関西電力の買い取り価格は1キロ・ワット時当たり35・7円。買い取り期間の20年間で計約8000万円の利益が出るという。

総事業費約1億4000万円で、昨年8月から工事を行っていた。この日の式典では山下真市長らが運転スイッチを押して完成を祝い、山下市長は「再生可能エネルギーの供給と地球温暖化の防止に貢献する、全国のモデル都市を目指したい」と述べた。